

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------------|------------------------------------|----------------|------------|
| 事業所番号 | 1491500060 | 事業の開始年月日 | 平成25年10月1日 |
| | | 指定年月日 | 平成25年10月1日 |
| 法人名 | ミモザ株式会社 | | |
| 事業所名 | ミモザ湯河原温々 | | |
| 所在地 | (〒259-0301) 神奈川県足柄下郡湯河原町中央2-8-3 | | |
| サービス種別 定員等 | 認知症対応型共同生活介護 | 定員計 | 18名 |
| | | ユニット数 | 2ユニット |
| 自己評価作成日 | 令和6年10月1日 | 評価結果 市町村受理日 | 令和7年1月15日 |

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

前年度に続き事業所の理念「安全とゆとりのある介護」スローガン「コミュニケーションを通じて自覚と思いやる心を忘れずに」を継続しスタッフ一同再認識しています。レクリエーション等は年間行事予定表を作成し実施、その様子はホームページやミモザ通信で毎月発行しています。ミモザ通信はご家族、行政、他事業所に配布しています。外の掲示板にも施設内の様子を掲示し地域の方や来訪者の方にもお褒め頂いております。ご利用者の体調管理面では訪問診療と訪問看護で24時間連携をとり緊急時対応もスムーズに出来ています。スタッフのスキルアップの為に毎月30分研修を行っています。この研修は年間計画に基づき職員が順番に講師になる事で、学び業務に反映させています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------|---------------|----------|
| 評価機関名 | ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部 | | |
| 所在地 | 神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207 | | |
| 訪問調査日 | 令和6年12月18日 | 評価機関 評価決定日 | 令和7年1月9日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

◇理念達成のためのスローガン

・理念「安全とゆとりのある介護」を目指し、「コミュニケーションを通じて思いやる心を忘れずに」を今年度のスローガンとしている。職員は流れ作業ではなく利用者一人ひとりに応じた対応を心がけている。

◇食事を楽しむ工夫

・利用者が、食事を楽しむことができるよう、月2回、日曜日の昼食には、品数が多く季節感あふれるお楽しみメニューを提供している。利用者の要望で蕎麦やラーメン等も提供している。

・おやつレクでは、ミニパンにクリームをのせたり、フルーツムースを作るなど、利用者も参加して楽しみながらおやつを準備している。

◇職場30分研修

・計画に基づき年間21項目の「職場30分研修」を行っている。講師を職員が交代で勤め、職員全体のレベルアップを目指している。

【事業所が工夫している点】

◇地域への情報発信

・事業所敷地内にある掲示板を利用して、ミモザ通信やイベントの写真、行事予定を掲示している。近隣の人や散歩をしている人にも事業所が行なっている介護について知ってもらうようにしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

| 評価項目の領域 | 自己評価項目 | 外部評価項目 |
|------------------------------|---------|---------|
| I 理念に基づく運営 | 1 ~ 14 | 1 ~ 7 |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 15 ~ 22 | 8 |
| III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 23 ~ 35 | 9 ~ 13 |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 36 ~ 55 | 14 ~ 20 |
| V アウトカム項目 | 56 ~ 68 | |

| | |
|-------|-----------|
| 事業所名 | ミモザ湯河原温々 |
| ユニット名 | さつきの家(1階) |

| V アウトカム項目 | | |
|-----------|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25) | <input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38) | <input type="radio"/> 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38) | <input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37) | <input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49) | <input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31) | <input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28) | <input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |

| | | |
|----|--|--|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19) | <input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19) | <input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4) | <input type="radio"/> 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない |
| 66 | 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12) | <input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 | <input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 | <input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ミモザ本社の理念「高齢者の幸せな暮らしに貢献する」施設理念は「安全とゆとりのある介護」です。昨年同様に管理者、職員が共有し実践している。 | ・理念「安全とゆとりのある介護」を目指し「コミュニケーションを通じて思いやる心を忘れずに」を今年度のスローガンとしている。 ・職員は利用者の状況を見て声を掛け、落ち着いて欲しい時は簡単に答えられることを話しかけている。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会に参加し回覧板にて地域と情報を共有し連携を取っている。外の掲示板にも行事情報などを発信している。 | ・自治会に加入し、回覧板や運営推進会議から地域の情報を得ている。 ・地元の敬老会の催しの準備に職員が参加している。 ・掲示板にミモザ通信やイベントの写真、行事予定を掲示し、近隣住民に事業所をアピールしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 近隣の人々に対して外の掲示板にて季節の行事やレクリエーションの写真などを掲示し認知症の方が楽しく生活 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 介護課や民生委員さんにも参加して頂き意見交換が出来ました。温々施設ご利用者にも参加して頂きました。 | ・運営推進会議を2か月に1度開催し、自治会役員、民生委員、湯河原町職員、湯河原町包括支援センター職員等の参加を得ている。 ・状況報告を行ない、また町内の情報も得ている。町の敬老の日のボランティア募集を聞き、参加した。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 湯河原町介護課や小田原福祉課とも連携を取り、ケアサービスの更新やケアマネ交流会や町主催の介護保険事業者連絡会等参加させて頂いている。介護保険申請等にも関わらせて頂いている。 | ・湯河原町介護課とは連携を取り、常に報告や相談を行っている。 ・湯河原町介護課のアナウンスで研修に参加し、「病院との連携」や「ケアマネージャーとしての視点の持ち方」など実践に即した内容を学んでいる。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。 | 施設職員は年2回の研修計画で身体拘束について学び、「身体拘束0作戦」を各階事務所や玄関に掲示している。また身体拘束適正化委員会にて自施設での事例について学び認識している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束適正化委員会を年6回行い、議事録を回覧している。 ・「身体拘束0作戦」について年2回の研修で話し合っている。どうすれば心のゆとりが得られるかを、職員間で議論している。 ・管理者は言葉のかけ方も拘束に繋がることを職員に伝えている。 | |
| 7 | 6 | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 身体拘束同様に年2回の研修計画で虐待について学び、虐待防止委員会を開催し施設職員が内容を共有している。ミモザ湯河原温々では「虐待は絶対に起こさない。」宣言を掲げている。職員は利用者に対する虐待の兆候を見逃さない様に職員同士意見を言える環境を整えている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・職員は虐待防止の研修で、してはいけない事を確認している。ミニ会議でも頻繁に話し合っている。 ・退院直後など利用者の心身の状態が著しく変化した時には、変化に適応した介護方法を話し合い、虐待に繋がらないようにしている。 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 職員が権利擁護に関する制度の理解を深めるために日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する研修を行い理解を深めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の終結、解約、改正の場合はご利用者のご家族に不安が無いように説明し、納得したうえで署名押印の書式を交わす。 | | |
| 10 | 7 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご利用者、ご家族からのご意見ご要望は職員並びに外部へも反映させている。方法としては毎月の状況報告書にご意見ご要望の欄を設け返信して頂いている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・家族とのコミュニケーションを大切にして、面会来所時には積極的に声をかけたり、介護計画の見直しの際にも意見や要望を聞き出すようにしている。 ・毎月送付している状況報告書の返信でも意見を求めている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | 8 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月定期的にスタッフ会議、アロー委員会を開催している。又希望者や契約更新者には1カ月前に個別面談をしている。職員の意見や提案を運営に反映している。 | ・毎月1回スタッフ会議を開催し、利用者の状況、レクレーション内容や必要な物品購入について話し合い、職員からの提案を実現に向けて検討している。 ・アロー委員会では仕事、雑用の分担について話し合っている。 | |
| 12 | 9 | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の経験や資格等の実績や勤務状況を考慮しスキル手当も充実し各自が向上心を持ち資格所得も推奨している。 | ・就業規則は出勤簿の近くに置いてあり、職員は有給付与日数等を確認している。 ・管理者はアローポイント、保持資格等の賃金への反映などをスタッフ会議で説明し、職員の意欲に繋げている。 | |
| 13 | 10 | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | ミモザ株式会社の社是が「人を育てる」であることから社外研修も充実している。30分研修も必然的に年間計画で行っている。講師も職員が担当して自主的にスキルアップしていく仕組みになっている。 | ・管理者は機会のあるごとに職員に資格取得を勧め、資格取得のための補助金を正職員、パート職員に関わらず出している。 ・事業所内で行なう30分研修では、講師を職員が交代で勤め、職員全体のレベルアップを目指している。 | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | ミモザ社内では週1回エリア内の情報共有を行っている。外部では行政が行う管理者交流会やケアマネ交流会に参加し同業者との連携を図っている。 | | |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | サービス利用開始する時にはご本人及びご家族の要望や希望に沿っていくこと。不安な事を聞き取り解決していくようにし、信頼関係を構築するようにしていく。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | サービスの開始時には必ず家族が困っている事や要望を聞き取り、施設でのサービス内容を説明し不安を軽減し、信頼関係を築いていく。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人やご家族が必要としているサービスを見極め支援していく事に務めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご利用者はおお客様と言う立場を保ちつつ、介護される側だけでなく暮らしを共にする同士の関係を築いている。洗濯たたみやテーブル拭き、他利用者へのアルコール消毒のお手伝い等を行っている。 | | |
| 19 | | ○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族も本人と同様に本人との絆を大切にさせて頂けるように支援していく。面会時間も制限していたが、少しずつ緩和する方向で変更されている。毎月生活状況報告書やミモザ通信を郵送している。 | | |
| 20 | 11 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの関係の友人や隣人との面会や連絡も再開している。手紙や電話での取次も行い関係性が途切れないように支援している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・管理者は家族の面会時に、タブレットの動画や写真で利用者の様子を見せ、事業所での普段の様子を伝えている。 ・家族からの電話を取り次いでいる。利用者の携帯電話の使用は、自己責任として認めている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 気の合う仲間、トランプ仲間など隣同士にしたり会話が苦手な方の間に職員が入りコミュニケーションをとり支援をしている。1人1人が孤立しないよう気配りをしている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービスが終了してもこれまでの関係性を大切にしながら必要に応じてその後の相談や経過報告し、状況の把握に努める。またその後の相談や支援も行う。 | | |
| Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 12 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 一人ひとりの思いや希望を聞き、暮らし方の向上に努めている。困難な場合はなるべく近づける様に支援している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・日々の会話や仕草から利用者一人ひとりの思いを汲み取っている。歩行不安を訴える利用者には、手引き歩行を行なっている。 ・言葉を発することが困難な利用者には、答えやすい質問の仕方、思いの把握に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 個々の生活歴や趣味を聞き取り提供できるように努めている。塗り絵やクイズ、頭の体操等を提供したりグループでレクリエーションを行っている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個々の1日のお過ごし方を把握し心身状態が穏やかに過ごせるように支援している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | 13 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 職員全員でケアの方針や現状を情報共有し介護計画に反映させている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・短期6カ月、長期1年の介護計画を作成している。 ・計画終了前に、管理者、ケアマネージャー、職員でモニタリングとアセスメントを行なっている。 ・利用者や家族、医師の意見を取り入れて計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子やケアの実践、結果気づきや工夫を個別に記録し職員間で情報共有している。その時々に見えるニーズを把握しケアプランを変更している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 既存のサービスに捉われない柔軟な支援や対応をしている。その時々に見えるニーズを把握しケアプランを変更している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域資源を把握し個々が心身の力を発揮し、安全で豊かな暮らしを楽しむことができる様に支援している。 | | |
| 30 | 14 | ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 訪問診療・訪問看護を隔週に受診し健康状態や変化を素早く判断でき適切な医療を受けられるように支援している。また緊急時は24時間対応可能で指示を受けることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・協力内科医は月2回の訪問診療を行い、24時間対応をしている。看護師による健康チェックが月2回ある。歯科医は週1回訪問している。 ・従来のかかりつけ医を継続する利用者もいる。通院は家族が同行し、事業所は結果報告を受けている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護師との連携も取れている。ご利用者の体調管理を行い、急変の対応や応急処置を行う。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院した際は安心して治療ができ、早期退院に向けて病院関係者と連携を取り合い情報共有している。退院後は看護サマリーの元に同様の支援を受けれる様にしている。 | | |
| 33 | 15 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化看取りに関しては入居契約時に説明と同意書を交わしている。医療関係者と連携をとり情報を共有、支援を行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・入所時に、重度化や看取りに関する事業所の指針を利用者、家族に説明し、確認書を交わしている。重度化した場合は家族、医師、事業所間で話し合い、方針を決めている。 ・ターミナルケアの研修を年1回行っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 事故発生時に備えて、緊急連絡網は事務所の目につきやすい場所に貼っている。緊急時マニュアルは定期的に30分研修で職員全員に周知徹底している。実践にも役立っている。 | | |
| 35 | 16 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回避難訓練を行っている。避難場所も、訓練や研修等行い職員に周知徹底している。夜間想定や地震、火災など想定し計画実行している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・夜間想定を含む年2回の避難訓練を実施している。1回は消防署員指導のもとで避難誘導や消火の訓練を行っている。 ・BCPを作成し研修を行っている。 ・飲料水と食料の備蓄を3日分、1階と2階に分けて保管している。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|------|--|--|--|---|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 17 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けている。特に接遇に関する研修を行い不適切な言動があれば個々に教育している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・職員は30分研修で、接遇、プライバシーの保護を学んでいる。 ・プライバシー保護のため、トイレや浴場のドアは必ず閉める事を徹底している。 ・管理者は、職員の不適切な声掛けや対応はその場で注意している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・プライバシー保護や接遇の研修を行っていますが、更なる人格尊重のために、不適切な言動、グレイゾーンにあたる声掛けなど具体的に洗い出し、研修に反映することが望まれます。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活の中でご利用者が自己決定出来る様に働きかけている。本人の思いや希望を表しやすくする環境づくりも支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日々の生活がその人らしい暮らしの延長戦上にある様に、どのように過ごしたいか希望を導いて支援する。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | その人らしい好みの身だしなみやおしゃれが出来る様に支援する。 | | |
| 40 | 18 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | ご利用者の好みや好き嫌い、量や形態把握し提供している。青魚禁のご利用者には代替品を提供している。出来る方にはお盆やテーブル拭きをお手伝いして頂いている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・食材は業者から取り寄せ、湯煎で提供している。利用者は月2回のお楽しみメニューで和、洋、中の味を楽しんでいる。 ・利用者はテーブル拭きや片付けを手伝い、おやつレクでデコレーションやトッピングを楽しんでいる。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食べる量や栄養バランス、水分量はその都度記録している。1日の摂取量が一目で分かる様に検温表に記録している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケアも行い、出来ない方は職員が介助している。週1回の訪問歯科で治療や洗浄を行っている。無料歯科検診をほとんどの方は受けて頂いている。 | | |
| 43 | 19 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 個々の排泄パターンを把握し、時間ごとに誘導の声掛けを行っている。車椅子の方にも出来る方には見守り、出来ない方には自立支援を行っている。 | ・排泄チェック表や利用者の仕草を見て声を掛けトイレ誘導している。夜間は必要に応じて誘導している。 ・ほとんどの利用者が夜間はオムツでも日中はリハビリパンツを使用している。オムツからリハビリパンツに改善した利用者もいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘の方には水分を多めにしたり、腹部マッサージを行う。3日出ない時は医師の指示に従い処方通りに行う。 | | |
| 45 | 20 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 入浴は週2回入っていただいている。拒否がある場合は無理強いせず、臨機応変に他者と交代したりして対応している。職員はゆっくり着脱入浴介助を行い利用者の全身観察を行い異変あれば報告している。 | ・入浴は週2回を基本として、利用者の体調や気持ちを考慮して入浴を促している。 ・柚子湯や菖蒲湯で季節を感じるなど、利用者は入浴を楽しんでいる。 ・浴室は床暖房とエアコンでヒートショック対策をしている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々の希望に沿った生活パターンを把握し提供している。日中はリビングで過ごされたりお昼寝されたりしている。利用者の状況に応じて支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個々の服薬状況を確認し内服薬の効果や副作用を理解している。訪問診療時には医師に状況を伝えている。毎食後の投薬は職員が管理している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 行事やレクリエーションなど年間行事を作成し実施している。出来る限り全員参加型の行事を工夫し提供している。各リビングには毎月行事の写真を貼り出したり季節感溢れる装飾をしている。 | | |
| 49 | 21 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ感染やインフルエンザ対策も緩和してきたので、お天気の良い日は玄関先で日光を浴びている。家族が受診やご自宅への外出に関わる方もいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・天気の良い日は利用者が近隣を散歩できるよう支援している。 ・玄関先に長椅子を置いて、利用者が外気浴を楽しみ、気分転換や体調維持ができるようにしている。 ・コロナ終息後、家族と外出する利用者もいる。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 基本お金は持たせていません。貴重品は入居時に持ち込まないように説明している。金銭管理は施設での立替えを基本としているが、預かり金の方もいます。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族や友人との電話の取次ぎやお手紙のやりとりが出来る様に支援している。 | | |
| 52 | 22 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用の空間は毎日清掃している。ご利用者に不快な環境を与えないように配慮している。その都度季節感を出す工夫をしている。玄関、リビング、階段等に季節ごとの飾りつけをしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・リビングや階段に行事の写真を掲示したり、季節を感じる飾りつけをしている。 ・居室やリビングは日勤の職員が毎日清掃やアルコール消毒を行なっている。体感を基準に室温や湿度を保ち、換気にも気を付けている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 個々の居場所を提供している。席順も気の合う合わない方を考慮している。テーブルの配置も変えたり工夫をしている。 | | |
| 54 | 23 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人の大事にしている仏壇や使い慣れた物を飾ったり、カレンダーを貼ったり居心地よく過ごせる様に支援している。使い慣れた椅子など持って来る方もいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・居室にはエアコン、カーテン、ベッド、チェスト等を備え付けている。居室内もカーペット敷で転倒時に緩衝できるようにしている。 ・利用者は使い慣れた家具や仏壇、テレビ等を持ち込んでいる。家具類は安全に配慮した配置にしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 安心安全な環境で生活出来る様に支援している。バリアフリーで手すりがあり歩行や立ち上がり移動が安全に出来る様支援している。 | | |

| | |
|-------|----------|
| 事業所名 | ミモザ湯河原温々 |
| ユニット名 | うめの家(2階) |

| V アウトカム項目 | | |
|-----------|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25) | <input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38) | <input type="radio"/> 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38) | <input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37) | <input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49) | <input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31) | <input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28) | <input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |

| | | |
|----|--|--|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19) | <input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19) | <input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4) | <input type="radio"/> 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない |
| 66 | 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12) | <input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 | <input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 | <input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ミモザ本社の理念「高齢者の幸せな暮らしに貢献する」施設理念は「安全とゆとりのある介護」です。昨年同様に管理者、職員が共有し実践している。 | | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会に参加し回覧板にて地域と情報を共有し連携を取っている。外の掲示板にも行事情報などを発信している。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 近隣の人々に対して外の掲示板にて季節の行事やレクリエーションの写真などを掲示し認知症の方が楽しく生活 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 介護課や民生委員さんにも参加して頂き意見交換が出来ました。温々施設ご利用者にも参加して頂きました。 | | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 湯河原町介護や小田原福祉課とも連携を取り、ケアサービスの更新やケアマネ交流会や町主催の介護保険事業者連絡会等参加させて頂いている。介護保険申請等にも関わらせて頂いている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。 | 施設職員は年2回の研修計画で身体拘束について学び、「身体拘束0作戦」を各階事務所や玄関に掲示している。また身体拘束適正化委員会にて自施設での事例について学び認識している。 | | |
| 7 | 6 | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 身体拘束同様に年2回の研修計画で虐待について学び、虐待防止委員会を開催し施設職員が内容を共有している。ミモザ湯河原温々では「虐待は絶対に起こさない。」宣言を掲げている。職員は利用者に対する虐待の兆候を見逃さない様に職員同士意見を言える環境を整えている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 職員が権利擁護に関する制度の理解を深めるために日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する研修を行い理解を深めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の終結、解約、改正の場合はご利用者のご家族に不安が無いように説明し、納得したうえで署名押印の書式を交わす。 | | |
| 10 | 7 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご利用者、ご家族からのご意見ご要望は職員並び外部へも反映させている。方法としては毎月の状況報告書にご意見ご要望の欄を設け返信して頂いている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | 8 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月定期的にスタッフ会議、アロー委員会会議を開催している。又希望者や契約更新者には1カ月前に個別面談をしている。職員の意見や提案を運営に反映している。 | | |
| 12 | 9 | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の経験や資格等の実績や勤務状況を考慮しスキル手当も充実し各自が向上心を持ち資格所得も推奨している。 | | |
| 13 | 10 | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | ミモザ株式会社の社是が「人を育てる」であることから社外研修も充実している。30分研修も必然的に年間計画で行っている。講師も職員が担当して自主的にスキルアップしていく仕組みになっている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | ミモザ社内では週1回エリア内の情報共有を行っている。外部では行政が行う管理者交流会やケアマネ交流会に参加し同業者との連携を図っている。 | | |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | サービス利用開始する時にはご本人及びご家族の要望や希望に沿っていくこと。不安な事を聞き取り解決していくようにし、信頼関係を構築するようにしていく。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | サービスの開始時には必ず家族が困っている事や要望を聞き取り、施設でのサービス内容を説明し不安を軽減し、信頼関係を築いていく。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人やご家族が必要としているサービスを見極め支援していく事に務めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご利用者はおお客様と言う立場を保ちつつ、介護される側だけでなく暮らしを共にする同士の関係を築いている。洗濯たたみやテーブル拭き、他利用者へのアルコール消毒のお手伝い等を行っている。 | | |
| 19 | | ○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族も本人と同様に本人との絆を大切にさせて頂けるように支援していく。面会時間も制限していたが、少しずつ緩和する方向で変更されている。毎月生活状況報告書やミモザ通信を郵送している。 | | |
| 20 | 11 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの関係の友人や隣人との面会や連絡も再開している。手紙や電話での取次も行い関係性が途切れないように支援している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 気の合う仲間、トランプ仲間など隣同士にしたり会話が苦手な方の間に職員が入りコミュニケーションをとり支援をしている。1人1人が孤立しないよう気配りをしている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービスが終了してもこれまでの関係性を大切にしながら必要に応じてその後の相談や経過報告し、状況の把握に努める。またその後の相談や支援も行う。 | | |
| Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 12 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 一人ひとりの思いや希望を聞き、暮らし方の向上に努めている。困難な場合はなるべく近づける様に支援している。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 個々の生活歴や趣味を聞き取り提供できるように努めている。塗り絵やクイズ、頭の体操等を提供したりグループでレクリエーションを行っている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個々の1日のお過ごし方を把握し心身状態が穏やかに過ごせるように支援している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | 13 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 職員全員でケアの方針や現状を情報共有し介護計画に反映させている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子やケアの実践、結果気づきや工夫を個別に記録し職員間で情報共有している。その時々に見えるニーズを把握しケアプランを変更している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 既存のサービスに捉われない柔軟な支援や対応をしている。その時々に見えるニーズを把握しケアプランを変更している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域資源を把握し個々が心身の力を発揮し、安全で豊かな暮らしを楽しむことができる様に支援している。 | | |
| 30 | 14 | ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 訪問診療・訪問看護を隔週に受診し健康状態や変化を素早く判断でき適切な医療を受けられるように支援している。また緊急時は24時間対応可能で指示を受けることができる。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護師との連携も取れている。ご利用者の体調管理を行い、急変の対応や応急処置を行う。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院した際は安心して治療ができ、早期退院に向けて病院関係者と連携を取り合い情報共有している。退院後は看護サマリーの元に同様の支援を受けれる様にしていく。 | | |
| 33 | 15 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化看取りに関しては入居契約時に説明と同意書を交わしている。医療関係者と連携をとり情報を共有、支援を行っている。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 事故発生時に備えて、緊急連絡網は事務所の目につきやすい場所に貼っている。緊急時マニュアルは定期的に30分研修で職員全員に周知徹底している。実践にも役立っている。 | | |
| 35 | 16 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回避難訓練を行っている。避難場所も、訓練や研修等行い職員に周知徹底している。夜間想定や地震、火災など想定し計画実行している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 17 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けている。特に接遇に関する研修を行い不適切な言動があれば個々に教育している。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活の中でご利用者が自己決定出来る様に働きかけている。本人の思いや希望を表しやすくする環境づくりも支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日々の生活がその人らしい暮らしの延長戦上にある様に、どのように過ごしたいか希望を導いて支援する。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | その人らしい好みの身だしなみやおしゃれが出来る様に支援する。 | | |
| 40 | 18 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | ご利用者の好みや好き嫌い、量や形態把握し提供している。青魚禁のご利用者には代替品を提供している。出来る方にはお盆やテーブル拭きをお手伝いして頂いている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食べる量や栄養バランス、水分量はその都度記録している。1日の摂取量が一目で分かる様に検温表に記録している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケアも行い、出来ない方は職員が介助している。週1回の訪問歯科で治療や洗浄を行っている。無料歯科検診をほとんどの方は受けて頂いている。 | | |
| 43 | 19 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 個々の排泄パターンを把握し、時間ごとに誘導の声掛けを行っている。車椅子の方にも出来る方には見守り、出来ない方には自立支援を行っている。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘の方には水分を多めにしたり、腹部マッサージを行う。3日出ない時は医師の指示に従い処方通りに行う。 | | |
| 45 | 20 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 入浴は週2回入っていただいている。拒否がある場合は無理強いせず、臨機応変に他者と交代したりして対応している。職員はゆっくり着脱入浴介助を行い利用者の全身観察を行い異変あれば報告している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々の希望に沿った生活パターンを把握し提供している。日中はリビングで過ごされたりお昼寝されたりしている。利用者の状況に応じて支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個々の服薬状況を確認し内服薬の効果や副作用を理解している。訪問診療時には医師に状況を伝えている。毎食後の投薬は職員が管理している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 行事やレクリエーションなど年間行事を作成し実施している。出来る限り全員参加型の行事を工夫し提供している。各リビングには毎月行事の写真を貼り出したり季節感溢れる装飾をしている。 | | |
| 49 | 21 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ感染やインフルエンザ対策も緩和してきたので、お天気の良い日は玄関先で日光を浴びている。家族が受診やご自宅への外出に関わる方もいる。 | | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 基本お金は持たせていません。貴重品は入居時に持ち込まないように説明している。金銭管理は施設での立替えを基本としているが、預かり金の方もいます。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族や友人との電話の取次ぎやお手紙のやり取りができる様に支援している。 | | |
| 52 | 22 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用の空間は毎日清掃している。ご利用者に不快な環境を与えないように配慮している。その都度季節感を出す工夫をしている。玄関、リビング、階段等に季節ごとの飾りつけをしている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 個々の居場所を提供している。席順も気の合う合わない方を考慮している。テーブルの配置も変えたり工夫をしている。 | | |
| 54 | 23 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人の大事にしている仏壇や使い慣れた物を飾ったり、カレンダーを貼ったり居心地よく過ごせる様に支援している。使い慣れた椅子など持って来る方もいる。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 安心安全な環境で生活出来る様に支援している。バリアフリーで手すりがあり歩行や立ち上がり移動が安全に出来る様支援している。 | | |

目 標 達 成 計 画

事業所名

ミモザ湯河原温々

作成日

令和 7年 1月 8日

【目標達成計画】

| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目 標 | 目標達成に向けた具体的な取組み内容 | 目標達成に要する期間 |
|------|------|---|--|--|------------|
| 1 | 10 | 前年度同様に1階2階のスタッフが分かれての勤務の為、スタッフの急病時等に対応出来ない場合が有る。対応出来るスタッフを少しでも多く増やしていきたい。 | 職員が行き来する事で各フロアの欠員時における不安を無くし、ご利用者の情報共有が出来る風通しの良い職場にしていこうと思います。 | 職員面談を実施、職員の各階に行き来出来る様なシフト作りを行い改善をしていきたい。 | 3ヵ月 |
| 2 | | | | | |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。